

I 年生保健 TOPIC READING②

次の文を読み自分の考えを述べなさい。

令和2年5月1日(金)の朝日新聞記事 感染症対策専門家

英王立国際問題研究所特別荣誉研究員 D.ヘイマン氏

『欧州 感染経路追えず拡大』

アジア諸国の多くは、これまで被害をかなり食い止めているように見えます。苦戦しているのはむしろ欧米諸国です。

「アジアの国々の多くは2002～2003年に SARS の大規模な感染拡大を経験しました。ベッド数を増やし、人工呼吸器を備えるなど対策を進めた結果、今回は効果的な治療ができたのです」

「香港や韓国などは感染者の行動を丹念に追跡し、接触者を特定することの重要性をよく理解しています。小規模の感染拡大が起きたら諦めずに封じ込めようと、市中への広がりが最小限に抑えられました」

—欧州は違ったと。

「アジア以外の多くの国は感染者の行動を把握できず、追跡を途中でやめてしまいました。病院で患者を選別したり、中国と同様に都市封鎖に踏み切ることによって病院に行く人の数を絞ったり、といった対応に集中することになったのです。アジア各国で行動制限が少ない一方、欧米では相次いだのも、これが理由でした」

—欧州では北イタリアでの被害が衝撃的でした。

「国による死者数の違いは病院の受け入れ能力と社会の年齢構成から説明できます。イタリアの特徴は人口に高齢者が占める割合の高さで、65歳以上は20～25%に達します。多くは高血圧や糖尿病、慢性疾患などを抱え、合併症を引き起こしやすい。若者と高齢者が一緒に暮らす生活スタイルも、被害が広がるきっかけになりました。感染した高齢者を受け入れる病床も十分確保できていませんでした」

「当局は当初、被害を地域で封じ込めようと試み、人々の外部への旅行も禁止しました。ただ、その間にも、多くの人の集まるスポーツイベントが開かれました。そこに来た若者達が感染し、そのまま、家に帰る。その家にはお年寄りが暮らしている……」

—ただ欧州も一様ではなく、被害がそれほど広がらなかった国もあります。

「ドイツでは対応も異なっていました。高齢者への感染の危険性を認識していた独当局は厳しく感染者の行動を追い、隔離政策を進めました」

—欧州の多くの国は今や国境を閉じました。

「感染拡大を防ぐ上で国境はあまり役に立たないでしょう。大部分の疫学者はむしろ国内でしっかり監視することが重要だと考えています」

—一方、英国のように空港を開いている国もあって対応は様々です。

「英国の対応も、国内で感染者を発見し隔離する方が重要だと考えてのことです。行動追跡のアプリ導入も試みていますが、感染の可能性を人々に知らせるうえで有効です。英国は自らリスクを分析し、最も正しいと思った対策を決めているといえます」

—独自の方針を続けるのがスウェーデンならではの発想です。制作を透明化し、市民を信頼し、人々に知識を持ってもらうことで行動制限を最小限にとどめる。市民も、人と人との間隔や手洗いの重要性を理解している。しっかりとした専門家が政府に協力しています」